

8 相談や情報の入手について

(1) 悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先（複数回答）

悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先は、身体障害者では「友人・知人」が最も多く 31.4%、次いで「病院・診療所」が 27.1%で続いている。

知的障害者では、「学校・職場」が最も多く 26.6%、次いで「総合福祉事務所」が 21.4%で続いている。

精神障害者では、「病院・診療所」が最も多く 43.1%、次いで「友人・知人」が 26.7%となっている。

難病患者では、「病院・診療所」が最も多く 34.1%、次いで「友人・知人」が 30.1%で続いている。また、16.5%が「相談できるところはない」と回答している。

施設入所者では、「福祉施設」が最も多く 64.0%、次いで「総合福祉事務所」が 13.0%で続いている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=558)	知的障害者 (n=248)	精神障害者 (n=434)	難病患者 (n=346)	施設入所者 (n=100)
総合福祉事務所	18.5 (3位)	21.4 (2位)	15.4 (3位)	9.2	13.0 (2位)
保健相談所	3.9	2.4	9.2	5.8	1.0
きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら	0.7	4.4	6.0	1.2	3.0
権利擁護センターほっとサポートねりま	0.2	0.8	0.5	—	—
民生委員・児童委員	0.9	—	1.2	—	—
身体障害者・知的障害者相談員	1.3	3.2	1.8		7.0 (3位)
児童相談所	0.4	1.6	1.2		—
福祉施設	3.8	15.7	5.3		64.0 (1位)
病院・診療所	27.1 (2位)	16.1	43.1 (1位)	34.1 (1位)	6.0
難病情報センター				2.0	
学校・職場	13.4	26.6 (1位)	9.7	3.5	1.0
障害者団体（患者団体・患者会）	4.5	3.2	2.5	2.9	1.0
友人・知人	31.4 (1位)	21.0 (3位)	26.7 (2位)	30.1 (2位)	7.0
その他	6.6	11.7	14.7	6.6	20.0
相談できるところはない	11.6	9.7	12.0	16.5 (3位)	1.0
相談の必要はない	14.3	7.7	8.3	12.1	1.0
無回答	9.9	14.5	4.4	4.6	9.0

(注) 斜線の選択肢は、各調査で質問していない。

【前回調査との比較】

(単位：%)

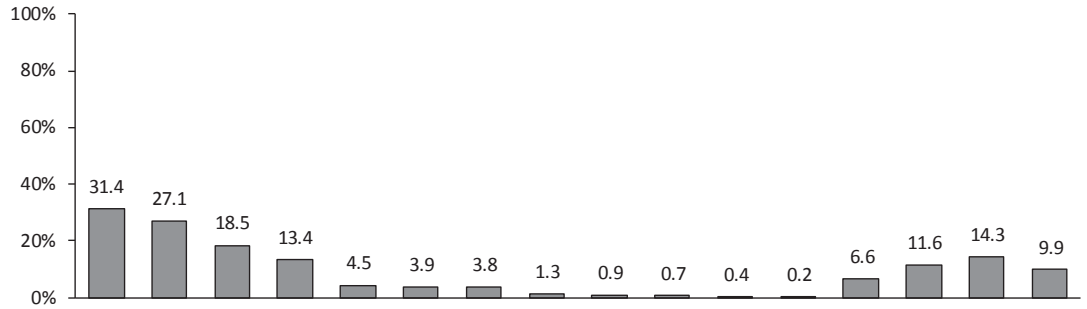
区 分		1 位	2 位	3 位
身 体 障 害 者	今 回 (n=558)	友人・知人 (31.4)	病院・診療所 (27.1)	総合福祉事務所 (18.5)
	前 回 (n=2,064)	友人・知人 (23.3)	病院・診療所 (23.2)	相談の必要はない (16.8)
知 的 障 害 者	今 回 (n=248)	学校・職場 (26.6)	総合福祉事務所 (21.4)	友人・知人 (20.0)
	前 回 (n=350)	福祉施設 (26.0)	総合福祉事務所 (24.6)	友人・知人 (19.7)
精 神 障 害 者	今 回 (n=434)	病院・診療所 (43.1)	友人・知人 (26.7)	総合福祉事務所 (15.4)
	前 回 (n=311)	病院・診療所 (46.0)	友人・知人 (28.3)	保健相談所 (16.1)
施 設 入 所 者	今 回 (n=100)	福祉施設 (64.0)	総合福祉事務所 (13.0)	身体障害者・知的障害者 相談員 (7.0)
	前 回 (n=94)	福祉施設 (69.1)	友人・知人 (16.0)	病院・診療所 (13.8)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（1・2級）では「友人・知人」（34.2%）、「病院・診療所」（29.0%）、「総合福祉事務所」（23.5%）、「学校・職場」（17.6%）が多くあげられており、また軽度（5・6級）の人ほど「相談の必要はない」（19.0%）が多くなっている。

障害の種類別にみると、聴覚障害では「友人・知人」（38.0%）、「障害者団体」（10.9%）、肢体不自由（上肢、下肢等）では「友人・知人」（37.7%）、「総合福祉事務所」（24.6%）、「学校・職場」（21.7%）、肢体不自由（体幹）では「総合福祉事務所」（27.1%）、「学校・職場」（22.9%）、内部障害では「病院・診療所」（33.1%）がそれぞれ多い。

悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先



【障害の程度別】	n	12	9	1	10	11	2	8	6	5	3	7	4	13	14	15	16
		友人・知人	病院・診療所	総合福祉事務所	学校・職場	障害者団体	保健相談所	福祉施設	身体障害者・知的障害者相談員	民生委員・児童委員	うきららぐ・すてつぷら	児童相談所	権利擁護センターほつとサポートねりま	その他	相談できる場所は	相談の必要はない	無回答
0 全体	558	31.4	27.1	18.5	13.4	4.5	3.9	3.8	1.3	0.9	0.7	0.4	0.2	6.6	11.6	14.3	9.9
1 重度（1・2級）	307	34.2	29.0	23.5	17.6	4.6	3.9	4.9	1.3	0.3	1.0	0.7	0.3	6.2	10.7	11.7	9.4
2 中度（3・4級）	173	27.7	24.9	13.9	8.1	2.3	5.2	2.3	1.2	2.3	-	-	-	9.2	13.3	16.2	9.8
3 軽度（5・6級）	63	31.7	23.8	7.9	7.9	7.9	-	3.2	1.6	-	-	-	-	3.2	12.7	19.0	9.5

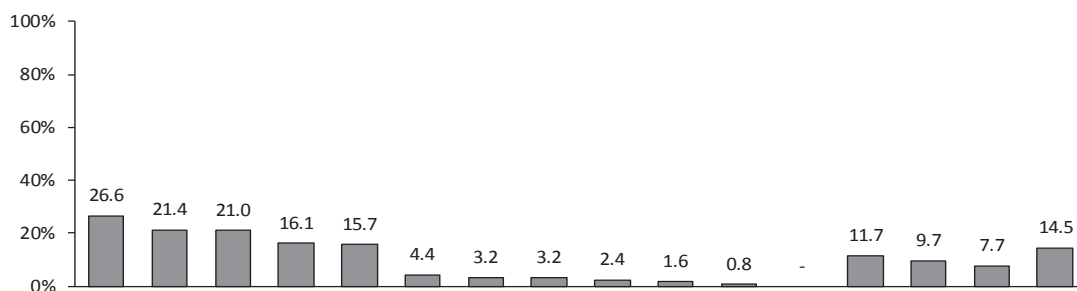
【障害の種類別】

障害の種類	n	12	9	1	10	11	2	8	6	5	3	7	4	13	14	15	16
1 視覚障害	89	25.8	20.2	15.7	7.9	4.5	3.4	4.5	-	3.4	-	-	-	5.6	12.4	19.1	7.9
2 聴覚障害	92	38.0	22.8	12.0	17.4	10.9	2.2	3.3	-	-	-	1.1	1.1	4.3	12.0	12.0	9.8
3 平衡機能障害	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	18	33.3	22.2	22.2	5.6	5.6	-	-	5.6	-	-	-	-	5.6	11.1	5.6	11.1
5 肢体不自由（上肢、下肢等）	138	37.7	30.4	24.6	21.7	2.2	3.6	3.6	1.4	-	2.2	0.7	-	7.2	11.6	13.8	9.4
6 肢体不自由（体幹）	48	18.8	22.9	27.1	22.9	4.2	4.2	8.3	2.1	-	-	-	-	14.6	14.6	14.6	8.3
7 内部障害	136	31.6	33.1	16.2	5.1	2.2	5.9	2.2	2.2	1.5	-	-	-	6.6	10.3	14.7	8.1
8 その他	14	28.6	28.6	28.6	7.1	-	-	7.1	-	-	-	-	-	-	21.4	7.1	14.3

【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「学校・職場」「総合福祉事務所」「友だち・知り合い」「病院・診療所」「福祉施設」が多くあげられている。

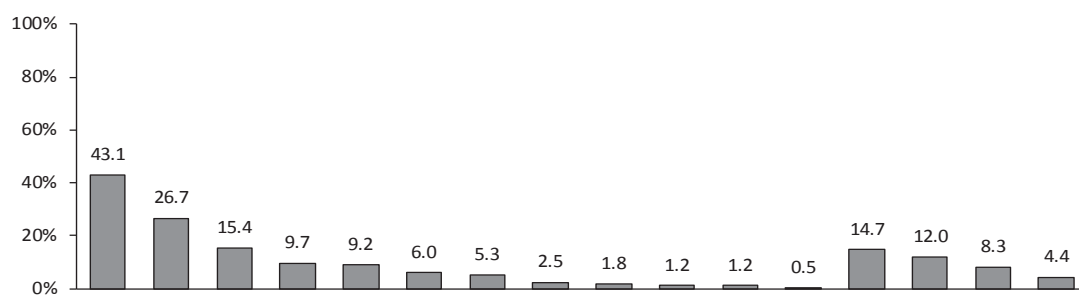
悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先



【障害の程度別】	n	10	1	12	9	8	3	6	11	2	7	4	5	13	14	15	16
		学校・職場	総合福祉事務所	友だち、知り合い	病院・診療所	福祉施設	うきらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら	身体障害者・知的障害者相談員	障害者団体	保健相談所	児童相談所	権利擁護センターほつとサポートねりま	民生委員・児童委員	その他	ない	相談できるところは	相談の必要はない
0 全体	248	26.6	21.4	21.0	16.1	15.7	4.4	3.2	3.2	2.4	1.6	0.8	-	11.7	9.7	7.7	14.5
1 最重度・重度（1・2度）	76	30.3	28.9	26.3	19.7	22.4	1.3	5.3	6.6	1.3	1.3	1.3	-	10.5	7.9	2.6	17.1
2 中度（3度）	65	23.1	23.1	23.1	13.8	20.0	6.2	3.1	1.5	3.1	-	1.5	-	7.7	10.8	7.7	15.4
3 軽度（4度）	94	28.7	17.0	17.0	13.8	7.4	6.4	2.1	2.1	3.2	3.2	-	-	13.8	11.7	11.7	10.6

【精神障害者】

診断名別にみると、いずれも「病院・診療所」、「友人・知人」、「総合福祉事務所」と回答する割合が多くなっている。

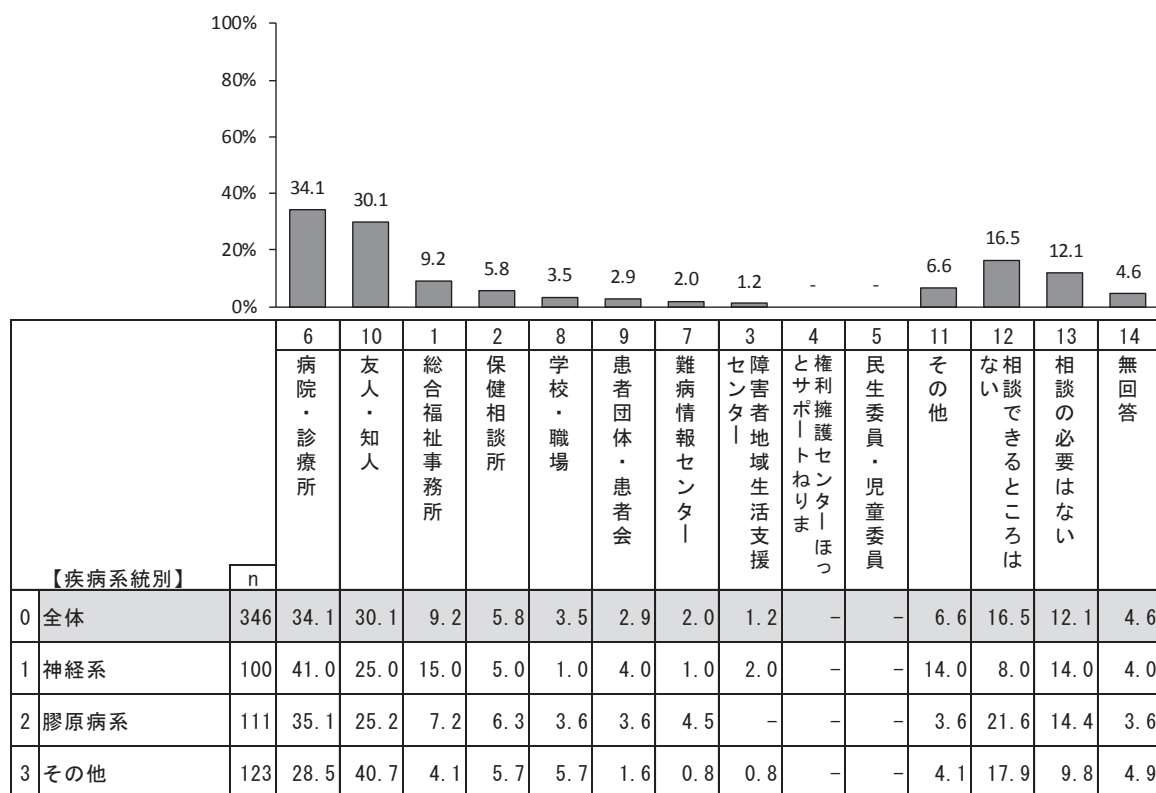


【診断名別】	n	9	12	1	10	2	3	8	11	6	5	7	4	13	14	15	16
		病院・診療所	友人・知人	総合福祉事務所	学校・職場	保健相談所	うきらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら	福祉施設	障害者団体	身体障害者・知的障害者相談員	民生委員・児童委員	児童相談所	権利擁護センターほつとサポートねりま	その他	ない	相談できるところは	相談の必要はない
0 全体	434	43.1	26.7	15.4	9.7	9.2	6.0	5.3	2.5	1.8	1.2	1.2	0.5	14.7	12.0	8.3	4.4
1 統合失調症	97	45.4	21.6	15.5	4.1	15.5	8.2	9.3	4.1	3.1	3.1	-	-	18.6	17.5	5.2	4.1
2 うつ病・躁うつ病	163	44.8	33.1	12.9	8.6	7.4	3.7	1.2	3.1	-	0.6	0.6	0.6	13.5	12.3	9.2	4.3
3 発達障害	70	45.7	21.4	17.1	22.9	1.4	10.0	11.4	2.9	2.9	-	2.9	1.4	15.7	11.4	5.7	1.4
4 その他	84	40.5	29.8	17.9	7.1	13.1	2.4	4.8	-	2.4	1.2	1.2	-	15.5	6.0	10.7	4.8

【難病患者】

疾病系統別にみると、神経系では「病院・診療所」（41.0%）が多くなっている。これに対し、膠原病系では「相談できるところはない」が多く21.6%となっている。

悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先



(2) 家族・親戚以外に相談するために必要な体制（自由回答）

主な意見は、次のとおりである。

【身体障害者】

- ・身近な場所で気軽に相談できる相談窓口の設置
- ・インターネットや電話など便利な相談支援ツールの充実
- ・24時間体制で相談できる仕組み
- ・訪問による相談支援の実施
- ・障害者同士の交流の場、ピアサポートによる相談窓口の設置
- ・相談先がわかるよう、相談受付内容の明確化
- ・プライバシー保護の仕組み
- ・広報活動の充実
- ・心を開くことのできる相談員の育成・配置
- ・専門的知識を持つスタッフの育成・配置
- ・職員が代わってもきちんと対応できる体制づくり
- ・医師やサービス事業者等と連携し支援するコーディネーターの設置

【知的障害者】

- ・訪問による相談支援の実施
- ・子どもの時から障害者と交流するなど、障害理解を深めること。
- ・親身になって対応してくれる身近なカウンセラー

【精神障害者】

- ・身近な場所で気軽に相談できる相談窓口の設置
- ・インターネットや電話など便利な相談支援ツールの充実
- ・24時間体制で相談できる仕組み
- ・訪問による相談支援の実施
- ・相談先がわかるよう、相談受付内容の明確化
- ・無料カウンセリング、無料悩みごと相談
- ・医師やカウンセラーなどが、ボランティア（無料）で、職場や学校に来てくれること。
- ・ピアカウンセリングの実施
- ・行政機関からの見回り、声かけ
- ・プライバシー保護の仕組み

【難病患者】

- ・インターネットや電話など便利な相談支援ツールの充実
- ・身近な場所で気軽に相談できる相談窓口の設置
- ・その病気に特化したカウンセリング
- ・個人的な相談、病気に理解のあるカウンセラー等
- ・プライバシー保護の仕組み
- ・相談先がわかるよう、相談受付内容の明確化
- ・情報提供の充実
- ・同じ病気を持つ人たちとの交流、コミュニケーションの場

【施設入所者】

- ・身近な場所で気軽に相談できる相談窓口の設置
- ・相談窓口のワンストップ化
- ・訪問による相談支援の実施
- ・情報提供やケアマネジメントの充実

(3) 福祉サービスなどの情報の入手先（複数回答）

福祉サービスなどの情報の入手先は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「ねりま区報」が最も多くなっている。

次いで、身体障害者では、「区の障害者福祉のしおり」が26.0%、知的障害者では、「学校、職場、施設」が25.0%、精神障害者、難病患者では、「病院・診療所」がそれぞれ26.3%、21.4%となっている。

施設入所者では、「学校、職場、施設」が最も多く39.0%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=558)	知的障害者 (n=248)	精神障害者 (n=434)	難病患者 (n=346)	施設入所者 (n=100)
ねりま区報	40.9 (1位)	39.5 (1位)	36.4 (1位)	43.6 (1位)	6.0
区のホームページ	12.9	5.2	13.4	16.8	2.0
区の障害者福祉のしおり	26.0 (2位)	19.0	8.8	9.5	3.0
総合福祉事務所・保健相談所	17.0	19.4 (3位)	16.8 (3位)	11.6	9.0 (3位)
きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら	1.1	4.4	7.1	1.2	2.0
学校、職場、施設	11.1	25.0 (2位)	8.8	1.4	39.0 (1位)
病院・診療所	13.3	3.6	26.3 (2位)	21.4 (2位)	3.0
民生委員・児童委員	0.4	—	0.7	—	1.0
障害者団体（患者団体・患者会）	5.7	10.1	3.2	1.4	1.0
家族・親せき	11.1	14.9	10.4	6.1	9.0 (3位)
友人・知人	19.4 (3位)	19.4 (3位)	7.6	8.4	2.0
その他	3.6	3.6	9.2	4.9	7.0
わからない	15.1	13.7	16.6	20.5 (3位)	30.0 (2位)
無回答	7.7	12.9	7.1	5.2	10.0

【前回調査との比較】

(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身 体 障 害 者	今 回 (n=558)	ねりま区報 (40.9)	区の障害者福祉のしおり (26.0)	友人・知人 (19.4)
	前 回 (n=2,064)	ねりま区報 (50.1)	総合福祉事務所・保健相談所 (17.0)	病院・診療所 (12.9)
知 的 障 害 者	今 回 (n=248)	ねりま区報 (39.5)	学校、職場、施設 (25.0)	総合福祉事務所・保健相談所 友人・知人（ともに19.4）
	前 回 (n=350)	ねりま区報 (40.0)	学校、職場、施設 (28.6)	友人・知人 (25.4)
精 神 障 害 者	今 回 (n=434)	ねりま区報 (36.4)	病院・診療所 (26.3)	総合福祉事務所・保健相談所 (16.8)
	前 回 (n=311)	病院・診療所 (29.9)	ねりま区報 (26.7)	総合福祉事務所・保健相談所 (19.9)
施 設 入 所 者	今 回 (n=100)	学校、職場、施設 (39.0)	わからない (30.0)	総合福祉事務所・保健相談所 家族・親せき（ともに9.0）
	前 回 (n=94)	学校、職場、施設 (45.7)	わからない (31.9)	家族・親せき (11.7)

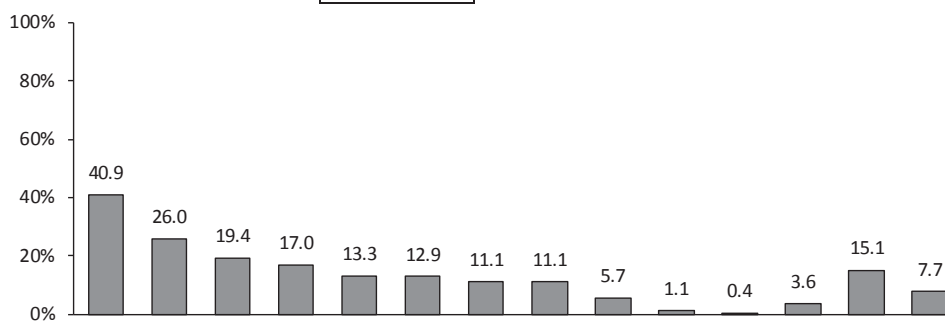
【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）の人ほど「区の障害者福祉のしおり」「友人・知人」「総合福祉事務所・保健相談所」の割合が高くなっている。

障害の種類別にみると、いずれも「ねりま区報」、「区の障害者福祉のしおり」の割合が高くなっている。

年齢３区分別にみると、65歳以上では「ねりま区報」が多くなっている。

情報の入手先



【障害の程度別】	n	1	3	11	4	7	2	6	10	9	5	8	12	13	14
		ねりま区報	おりの障害者福祉のしおり	友人・知人	総合福祉事務所・保健相談所	病院・診療所	区のホームページ	学校、職場、施設	家族・親せき	障害者団体	うきららぐ・すてつぷら	民生委員・児童委員	その他	わからない	無回答
0 全体	558	40.9	26.0	19.4	17.0	13.3	12.9	11.1	11.1	5.7	1.1	0.4	3.6	15.1	7.7
1 重度（１・２級）	307	40.4	30.3	22.8	22.5	13.7	12.4	14.0	11.4	6.8	0.7	0.3	4.2	12.1	5.5
2 中度（３・４級）	173	42.8	23.1	13.3	11.6	14.5	13.3	6.9	12.1	2.9	1.7	0.6	2.9	18.5	8.7
3 軽度（５・６級）	63	38.1	17.5	17.5	7.9	7.9	12.7	9.5	4.8	6.3	-	-	3.2	22.2	11.1

【障害の種類別】

障害の種類	n	1	3	11	4	7	2	6	10	9	5	8	12	13	14
1 視覚障害	89	53.9	25.8	11.2	19.1	7.9	9.0	7.9	11.2	5.6	-	1.1	5.6	15.7	4.5
2 聴覚障害	92	37.0	20.7	18.5	12.0	9.8	15.2	10.9	16.3	12.0	-	-	3.3	14.1	10.9
3 平衡機能障害	2	100.0	-	50.0	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	18	44.4	33.3	22.2	5.6	16.7	11.1	5.6	11.1	5.6	5.6	-	5.6	5.6	16.7
5 肢体不自由（上肢、下肢等）	138	38.4	32.6	27.5	21.0	14.5	11.6	23.2	6.5	5.1	2.2	-	3.6	13.8	6.5
6 肢体不自由（体幹）	48	41.7	29.2	12.5	20.8	10.4	18.8	12.5	12.5	4.2	-	-	4.2	14.6	2.1
7 内部障害	136	39.0	22.1	19.1	16.9	19.1	11.8	3.7	13.2	1.5	-	0.7	2.2	19.9	5.1
8 その他	14	21.4	35.7	7.1	14.3	7.1	21.4	-	-	-	-	-	7.1	14.3	28.6

【年齢別】

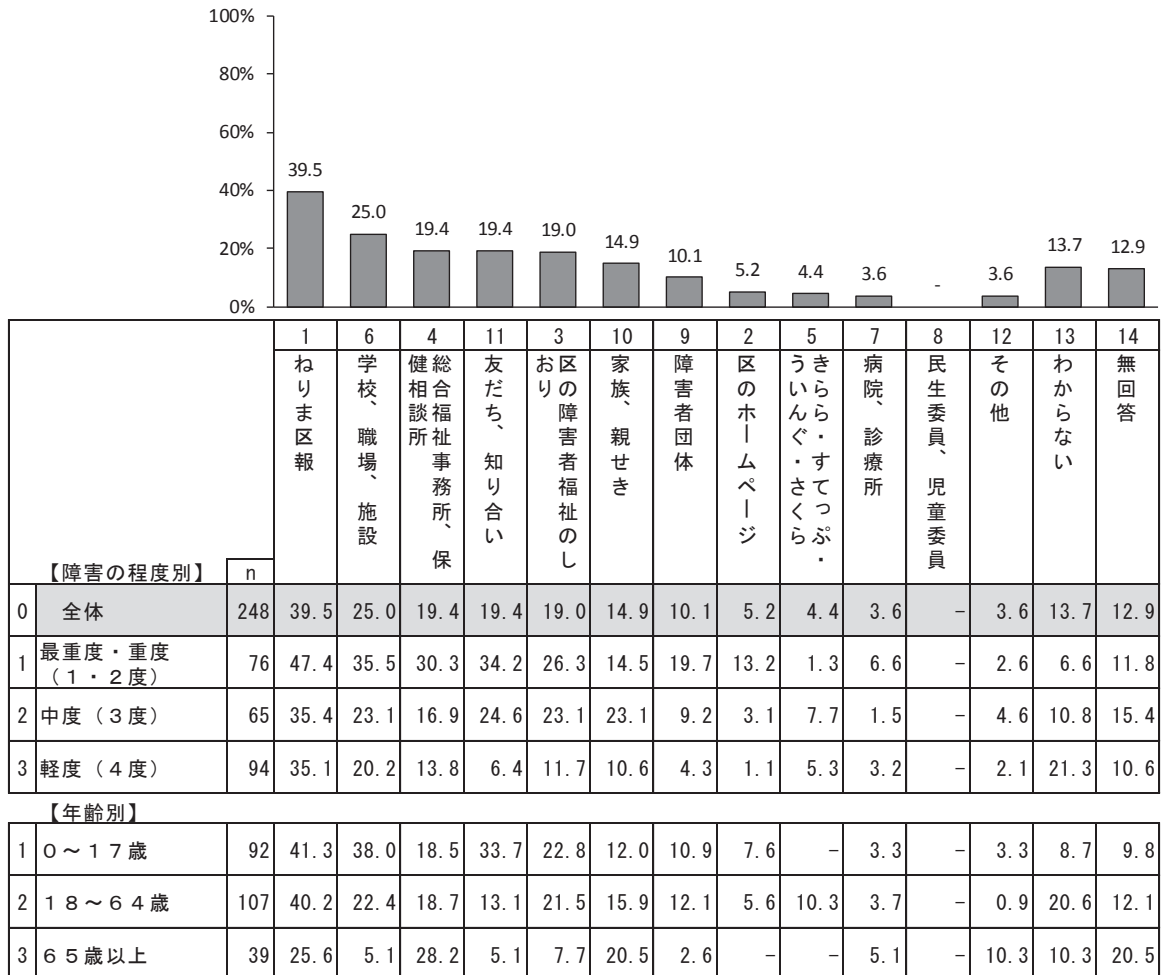
年齢	n	1	3	11	4	7	2	6	10	9	5	8	12	13	14
1 0～17歳	144	36.1	41.7	35.4	22.2	16.0	15.3	34.7	13.2	10.4	1.4	-	1.4	13.9	2.1
2 18～64歳	186	34.9	24.2	12.9	19.9	11.8	17.2	4.3	7.0	4.3	1.6	0.5	4.3	19.4	5.9
3 65歳以上	214	50.5	17.3	14.0	11.7	12.6	7.5	1.4	13.6	3.3	0.5	0.5	4.7	12.1	13.1

【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）の人ほど「ねりま区報」「学校、職場、施設」「総合福祉事務所、保健相談所」からの情報入手が多くなっている。

年齢3区分別にみると、0～17歳では「学校、職場、施設」（38.0%）、「友だち、知り合い」（33.7%）、18～64歳では「きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら」（10.3%）がそれぞれ多くなっている。

情報の入手先

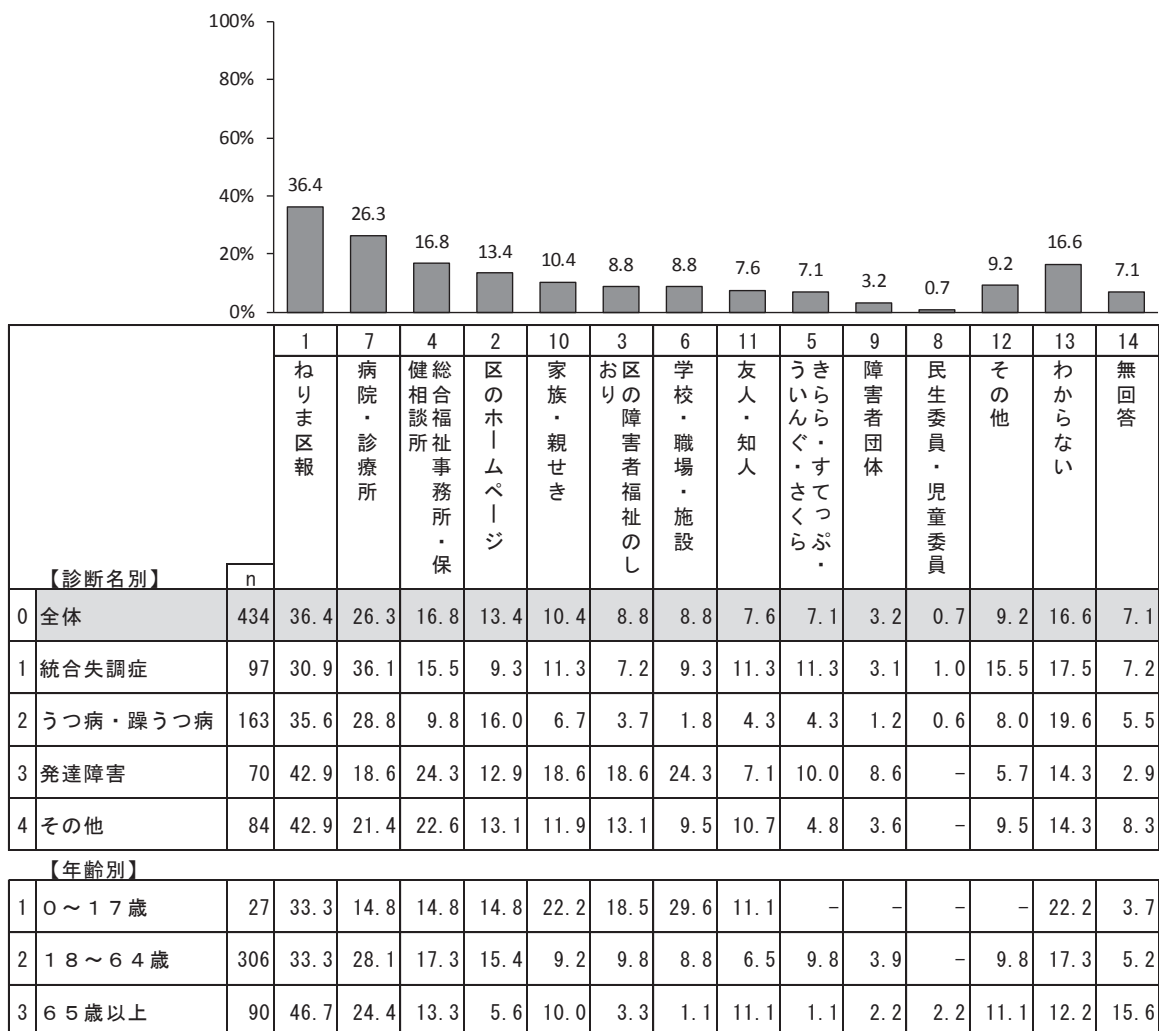


【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症、うつ病・躁うつ病と診断されている人では「病院・診療所」（それぞれ36.1%、28.8%）、発達障害と診断されている人では「ねりま区報」（42.9%）、「総合福祉事務所・保健相談所」「学校・職場・施設」（ともに24.3%）、「家族・親せき」（18.6%）、「区の障害者福祉のしおり」（18.6%）がそれぞれ多い。

年齢3区分別にみると、65歳以上では「ねりま区報」が多く46.7%となっている。

情報の入手先

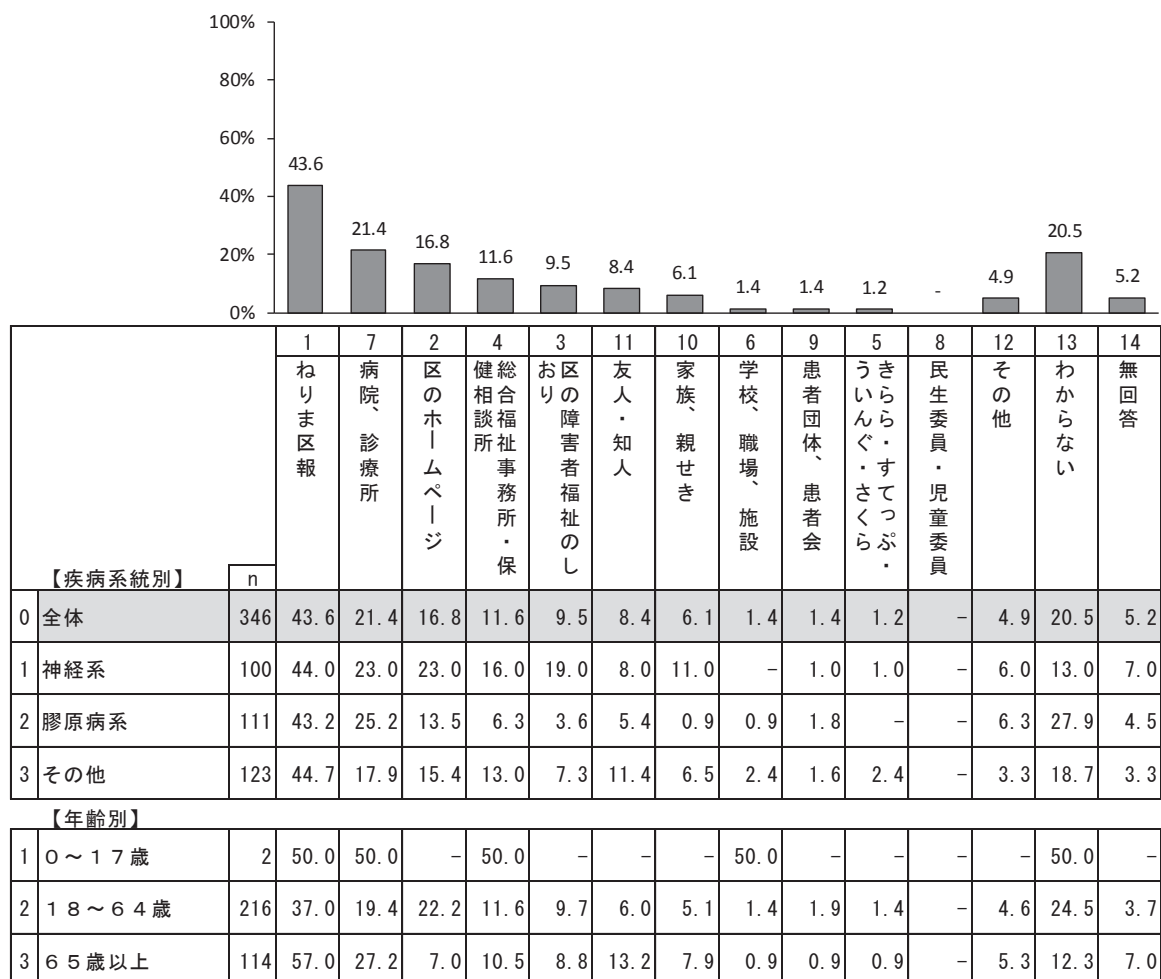


【難病患者】

疾病系統別にみると、神経系、膠原病系いずれも「ねりま区報」（それぞれ44.0%、43.2%）が最も多く、神経系では「区の障害者福祉のしおり」（19.0%）も多くなっている。

年齢3区分別にみると、18～64歳では「区のホームページ」（22.2%）、65歳以上では「ねりま区報」（57.0%）、「病院、診療所」（27.2%）がそれぞれ多い。

情報の入手先



(4) 福祉サービスの情報提供を充実するために区がすべきこと（自由回答）

主な意見は、次のとおりである。

【身体障害者】

- ・テレビやラジオ、電車の中吊りなどを活用した、広報活動の強化
- ・障害者が利用しやすいよう、区報、ホームページの工夫・充実
- ・メール、SNS、LINEなど情報提供手段の充実
- ・障害種別による障害者福祉のしおりの作成
- ・福祉事務所からのきめ細やかな情報提供の実施
- ・一人ひとりにあわせた情報提供の充実
- ・利用可能なサービスのアドバイスの実施
- ・学校での勉強会・説明会等の実施
- ・職員の障害に対する意識改革

【知的障害者】

- ・定期的な説明会や親向けの講演会・勉強会等の開催
- ・広報活動、区報、障害者福祉のしおりの充実
- ・福祉サービスや年齢別に必要なサービス等のお知らせを個人に送付
- ・障害に関しての内容をまとめたわかりやすい冊子の作成
- ・学校、職場、施設、病院などへの情報提供
- ・福祉団体と提供サービス一覧表の配布
- ・福祉事務所への専門的な人員の配置増
- ・福祉総合受付の設置
- ・自宅への訪問

【精神障害者】

- ・郵送や訪問等などにより障害者本人や家族に直接情報を伝える。
- ・福祉サービスに関する冊子の作成
- ・メールマガジンのように個々の障害や事情に合った情報を配信するサービス
- ・障害者福祉のしおりが、新しくなったら毎回郵送して欲しい。
- ・区報などの充実
- ・区出張所・図書館・病院等にパンフレットなどを置く。
- ・病院・医院・薬局等との連携の充実
- ・地域ごと（近く）に障害者の相談窓口があると良い。
- ・福祉サービスについて、どのようなものが受けられるのか教えてくれる総合窓口の設置

【難病患者】

- ・情報発信、区報の充実
- ・訪問や電話、郵送等により難病患者への定期的な情報を発信すること。
- ・インターネットや、メールなどの情報提供手段の充実
- ・区役所の開庁時間帯の変更
- ・対応できる職員の増

【施設入所者】

- ・わかりやすく広報すること。
- ・お知らせ等に最重要、重要、普通のランク付けをする。
- ・福祉サービス等の情報を発信する側に障害者を積極的に参加させ、当事者の意見を反映させる。

(5) コミュニケーション手段（身体障害者のみ）

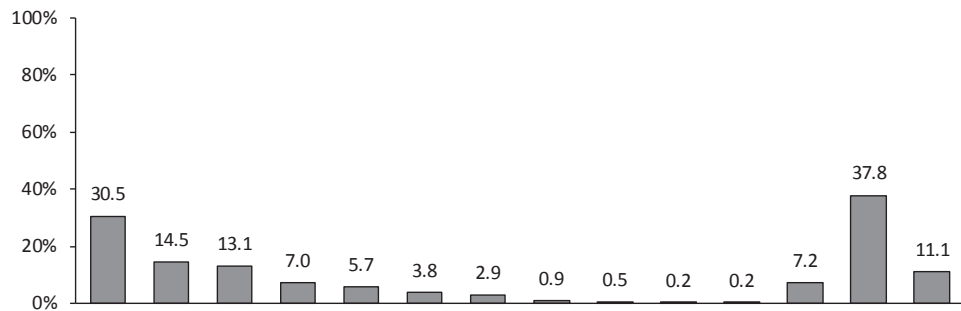
① コミュニケーションの際の手段・機器等の利用状況（複数回答）

身体障害者のコミュニケーションの際の手段・機器の利用状況は、「携帯のメール」が最も多く30.5%、次いで「パソコンのメール」が14.5%となっている。一方、「特に使用している機器はない」は37.8%である。

年齢3区分別にみると、0～17歳では「特に使用している機器はない」（52.1%）、18～64歳では「携帯のメール」（55.9%）、「パソコンのメール」（28.5%）がそれぞれ多い。

障害の種類別にみると、聴覚障害では「補聴機器」（60.9%）、「携帯のメール」（35.9%）、「筆談・要約筆記」（34.8%）、「手話・手話通訳」（31.5%）がそれぞれ多い。これに対し、肢体不自由（上肢、下肢等）、肢体不自由（体幹）、内部障害では「特に使用している機器はない」が多くそれぞれ5割前後を占めている。

コミュニケーションの際の手段・機器等の利用状況



【年齢別】	n	2	1	7	6	4	5	9	3	11	8	10	12	13	14
		携帯のメール	パソコンのメール	補聴機器	筆談・要約筆記	手話・手話通訳	読話	指文字・指点字	携帯用会話補助装置	文字盤	触手話	意志伝達装置	その他	特に使用している機器はない	無回答
0 全体	558	30.5	14.5	13.1	7.0	5.7	3.8	2.9	0.9	0.5	0.2	0.2	7.2	37.8	11.1
1 0～17歳	144	18.8	4.9	13.9	4.9	8.3	2.8	4.2	0.7	-	-	-	5.6	52.1	11.8
2 18～64歳	186	55.9	28.5	9.7	9.1	6.5	6.5	3.8	1.1	0.5	0.5	0.5	6.5	25.8	3.2
3 65歳以上	214	16.4	8.9	15.9	6.5	3.3	1.9	0.9	0.9	0.9	-	-	8.4	40.7	15.9

【障害の種類別】	n	2	1	7	6	4	5	9	3	11	8	10	12	13	14
		携帯のメール	パソコンのメール	補聴機器	筆談・要約筆記	手話・手話通訳	読話	指文字・指点字	携帯用会話補助装置	文字盤	触手話	意志伝達装置	その他	特に使用している機器はない	無回答
1 視覚障害	89	28.1	16.9	3.4	1.1	-	2.2	1.1	1.1	1.1	-	1.1	15.7	36.0	14.6
2 聴覚障害	92	35.9	19.6	60.9	34.8	31.5	18.5	14.1	1.1	1.1	-	-	5.4	2.2	9.8
3 平衡機能障害	2	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	18	38.9	16.7	-	16.7	5.6	5.6	5.6	-	-	-	-	5.6	33.3	5.6
5 肢体不自由（上肢、下肢等）	138	30.4	13.0	2.2	0.7	1.4	0.7	0.7	0.7	-	0.7	-	7.2	49.3	9.4
6 肢体不自由（体幹）	48	25.0	12.5	4.2	4.2	-	-	-	2.1	2.1	-	-	2.1	54.2	8.3
7 内部障害	136	29.4	13.2	4.4	-	-	-	-	0.7	-	-	-	3.7	49.3	8.1
8 その他	14	28.6	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.1	42.9	21.4

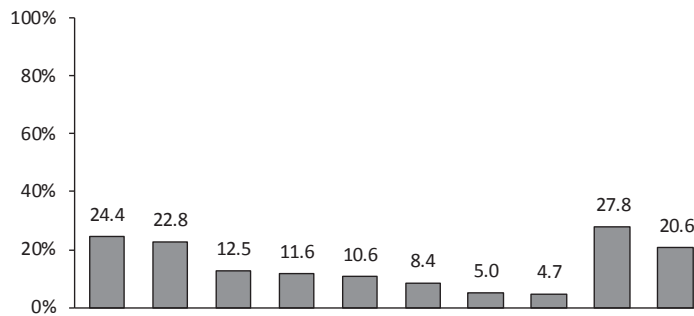
② コミュニケーションや情報取得のために充実すべきこと（複数回答）

コミュニケーションや情報取得のために充実すべきことは、「パソコン・携帯メールによる情報提供を増やす」が最も多く 24.4%、次いで「公共施設の案内・誘導をわかりやすくする」が 22.8%となっている。また、「特にない」が 27.8%となっている。

障害の程度別にみると、程度による大きな差はみられない。

障害の種類別にみると、視覚障害者では「音声による情報提供を増やす」（40.4%）、「点字による情報提供を増やす」（14.6%）、聴覚障害では「パソコン・携帯メールによる情報提供を増やす」（35.9%）、「手話通訳・要約筆記を充実する」（33.7%）がそれぞれ多い。

コミュニケーションや情報取得のために充実すべきこと



【障害の程度別】	n	3	5	6	2	7	4	1	8	9	10
		パソコン・携帯メールによる情報提供を増やす	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする	コミュニケーション支援機器を充実する	音声による情報提供を増やす	コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供を増やす	手話通訳・要約筆記を充実する	点字による情報提供を増やす	その他	特にない	無回答
0 全体	558	24.4	22.8	12.5	11.6	10.6	8.4	5.0	4.7	27.8	20.6
1 重度(1・2級)	307	27.4	21.8	14.7	13.4	11.4	10.1	5.9	5.5	24.8	19.5
2 中度(3・4級)	173	20.8	23.7	9.8	8.1	9.2	5.2	3.5	3.5	33.5	20.8
3 軽度(5・6級)	63	23.8	25.4	11.1	14.3	11.1	11.1	6.3	4.8	25.4	22.2

【障害の種類別】		3	5	6	2	7	4	1	8	9	10
1 視覚障害	89	23.6	24.7	6.7	40.4	6.7	2.2	14.6	3.4	21.3	14.6
2 聴覚障害	92	35.9	31.5	25.0	1.1	13.0	33.7	1.1	6.5	18.5	17.4
3 平衡機能障害	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	18	27.8	16.7	5.6	5.6	5.6	-	-	5.6	38.9	22.2
5 肢体不自由(上肢、下肢等)	138	22.5	22.5	17.4	7.2	14.5	6.5	3.6	5.1	29.7	20.3
6 肢体不自由(体幹)	48	18.8	27.1	10.4	12.5	8.3	4.2	4.2	4.2	27.1	20.8
7 内部障害	136	20.6	16.2	7.4	5.9	10.3	1.5	3.7	4.4	37.5	20.6
8 その他	14	21.4	14.3	7.1	14.3	7.1	7.1	14.3	7.1	21.4	42.9